

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 537 号	氏名	一ノ宮 大雅
学位審査委員	主査	前村 浩二	
	副査	蒔田 直昌	
	副査	江石 清行	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>心筋の虚血再灌流時にある種の薬剤を投与すると、心筋の虚血再灌流による傷害が軽減することが知られており、ポストコンディショニング効果とよばれている。本研究は Rho kinase 阻害薬であるファスジルのポストコンディショニング効果、およびミトコンドリア ATP 感受性 K (mKATP) チャンネルの役割について検討したものであり目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>Sprague-Dawley ラットを用いて、正常血糖下と高血糖下で冠動脈左前下行枝を 30 分結紮後にファスジルを投与し、さらに 120 分再還流後に心筋梗塞範囲を検討した。また同モデルで mKATP チャンネル開口薬と阻害薬を投与してポストコンディショニングのメカニズムを解析したもので、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、臨床的に通常に使用される用量のファスジルにより、正常血糖および高血糖下でポストコンディショニング効果を認めた。その機序としては mKATP チャンネルの関与が示唆された。今後、ポストコンディショニングが効きにくいとされる糖尿病患者にも応用が可能と考えられ、心臓手術、心筋梗塞などの治療への貢献が大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は麻酔、蘇生学、循環器学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			